

# やまとの名品 天理図書館



## いはやものがたり

室町時代末期写 2冊

縦32.0cm 横24.3cm

シンデレラや白雪姫は、実母と別れ、新しく迎えた母から迫害を受けるも、人々に助けられ、困難に立ち向かい、王子と結ばれ、幸せな結末を迎えます。同じようなお話が『落窪物語』『いはやものがたり』『鉢かつぎ』など日本の平安時代から続く物語にもあります。

『いはやものがたり』は対の屋姫が主人公となる室町時代のお伽草子です。堀河の中納言は白川の宮と結ばれ、姫を授かりました。姫は賢く、美しく育ちましたが、八歳の時、病で母を亡くしました。三年後、中納言は新しい妻を迎え、姫は西の対の屋で暮らす事から、対の屋姫と

呼ばれました。

しばらくし

て、中納言一

家は太宰府へ

赴任する事と

なりました。

旅の途中、繼

母は家来に姫を海に沈めるよう

にと命じましたが、家来は姫が

念仏を唱える姿を不憫に思い、

姫を岩の上に置き去りにしまし

た。すると姫は、舟を漕ぐ海士

に助けられ、明石の浦の岩屋で

暮らす事となりました。

ある時、明石に立ち寄った中

将が姫を見せめ、都へ連れて帰

りました。中将の家族は嫁にする

事を反対しましたが、姫の教



養・才能が認められ、夫婦となり、二人の子どもを授かりました。その後、姫は父との再会も果たし、幸せに暮らしました。

本書は上下二冊の総頁数の半分を超える六十八頁に色彩豊かな挿絵が描かれ、本文の文字も蝶や七宝等の形に書かれた豪華な大型奈良絵本です。

表紙の見返しには「桃」「杜若」「萩」「水仙」の花束が描かれ、水引を結んで花鬘斗とし、この本が贈り物として仕立てられた事を表しています。

(天理図書館 西田裕美)